

パネル討論の進めかた

1. 歴史観からの課題

(人類史の中の現在という視点)

2. 学問体系としての課題

(学問的探求の視点)

3. 実践面からの課題

(企業実務の視点)

4. 技術面からの課題

(自然科学の視点)

5. ガバナンスからの課題

(社会科学の視点)

課題構造の提示 技術面からの課題検討



名前 佐々木良一
所属 東京電機大学

Feb 2007

課題はいろいろあるが

- (1) 研究者がよい課題を見つけて、よい研究をやることに尽きる
- (2) よい研究のためにはよい情報が不可欠
- (3) よい情報はよい情報を発信しないと入ってこない

情報の受発信と学会

情報の共有のための学会誌

(a) 編集部会長として学会誌の改革

- ① ニュースレターと論文誌の合体
- ② 解説記事の掲載
- ③ 年1回を年3回発行に移行(井上現
部会長の貢献)

(b) 情報発信の場としての学会誌

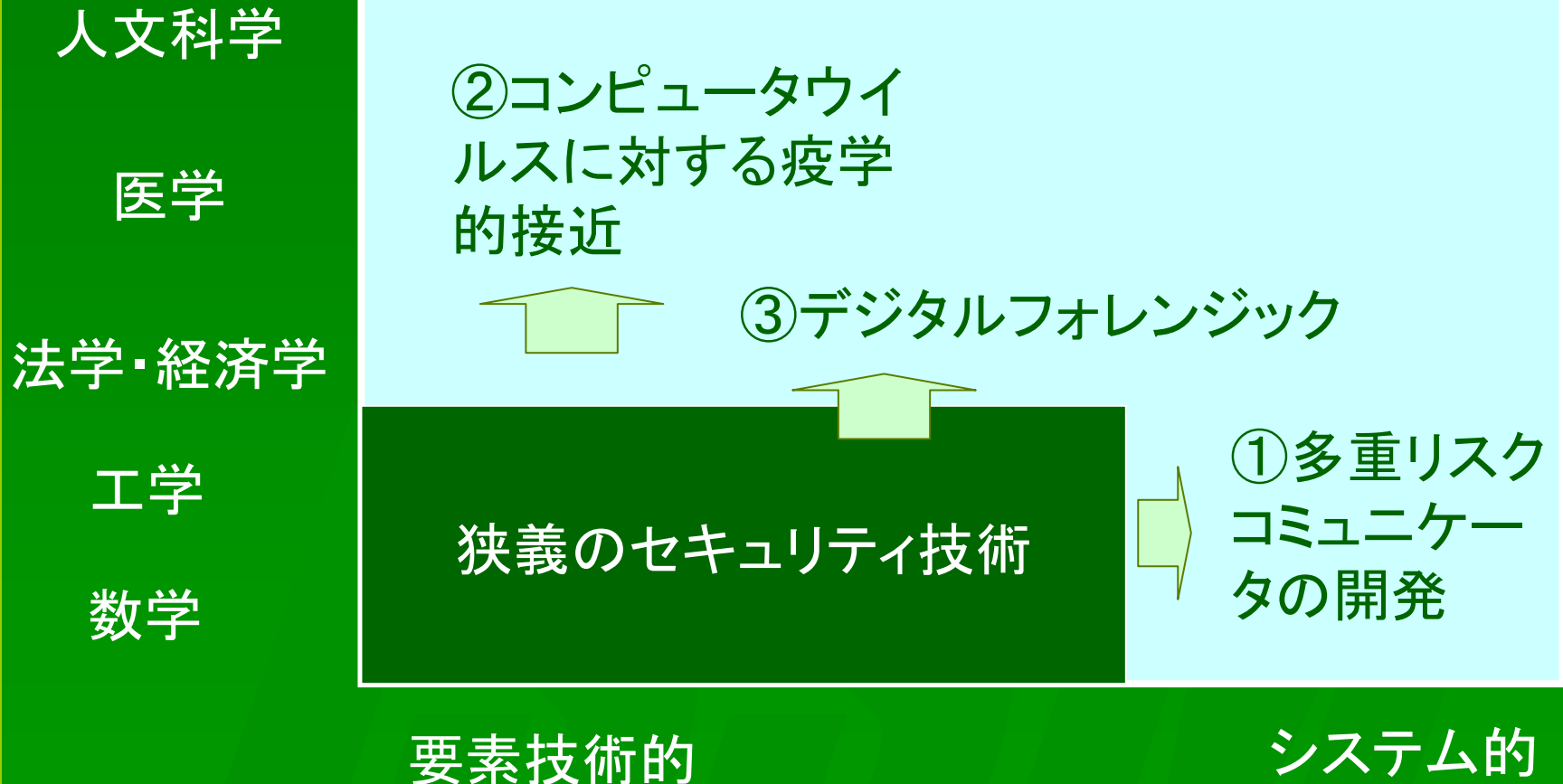
論文の質と量の向上

(量は増加、質は今後)

私の技術研究の進め方

1. 他人がやってなくてうまくいったら成果が大きいと思うものをやる
2. 複数の技術領域にまたがるもの、条件を極端にしたものに挑戦してみる
3. 「もっと飢餓感を持って、もっと自負心を持って、最後のがんばりはこれらのコンプレックスが支えてくれる」

学際的アプローチの位置づけ



残された課題

- 学会の外への情報発信
- 真に役に立つ研究の増加
- 海外への情報発信

2008年1月27日—30日

デジタルフォレンジックに関する国際学会
京都大学 =>もっと増やせないか

5. 社会科学的視点から の課題



堀 江 正 之
日本大学

Feb 2007

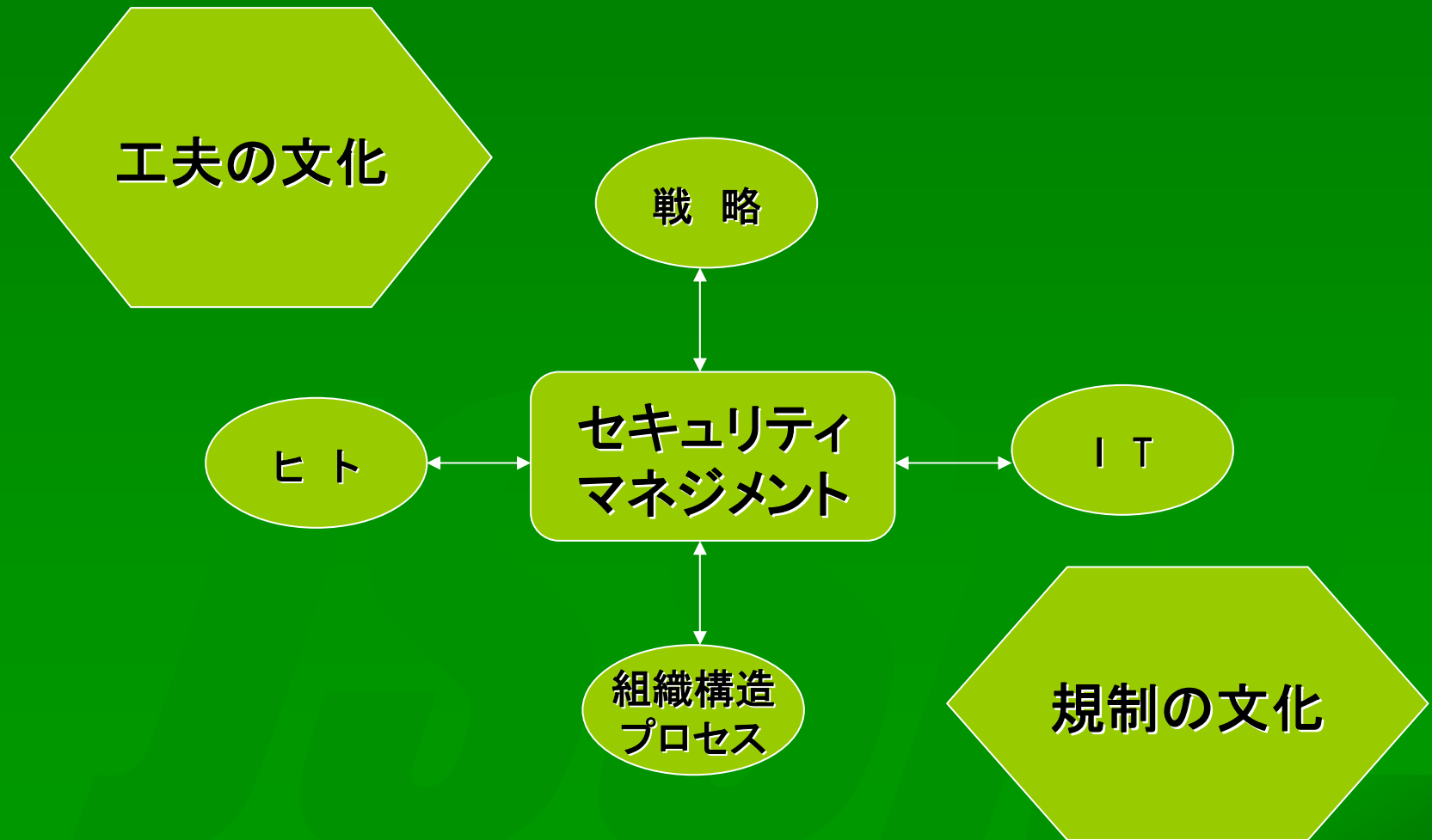
A. 社会科学の基本のキホン

—概念の定義—

<例>

- セキュリティマネジメントとITマネジメントの関係？
- ITガバナンスとITマネジメントの違い？
- 内部統制とガバナンスの違い？

B. 課題構造を考えるための視点



C. 具体的課題

1. 実証研究の必要性(ケース分析の難しさと、普遍性の発見の困難さ)
2. 理論モデル/パラダイム作りとその検証(基礎研究の充実)
3. 学際性の罫(アイデアはあっても、そこから先に進めない)
4. 産学協同/コラボレーション(口でいうのは易しいが、研究には時間とお金がかかる)
5. アウトプットのない研究?(お勉強との違い)

課題構造の提示

3. 実践面からの課題



塩崎哲夫
富士通株式会社

Feb 2007

A. 課題の構造

- システム開発・運用における役割分担
 - 発注者・受託者のセキュリティに関する契約
 - セキュリティリスク分析
 - セキュリティ要件の定義(技術的・運用的)
- セキュリティ対策の実装面の課題

B. 構成要素別に見た具体的課題

■ 現状認識

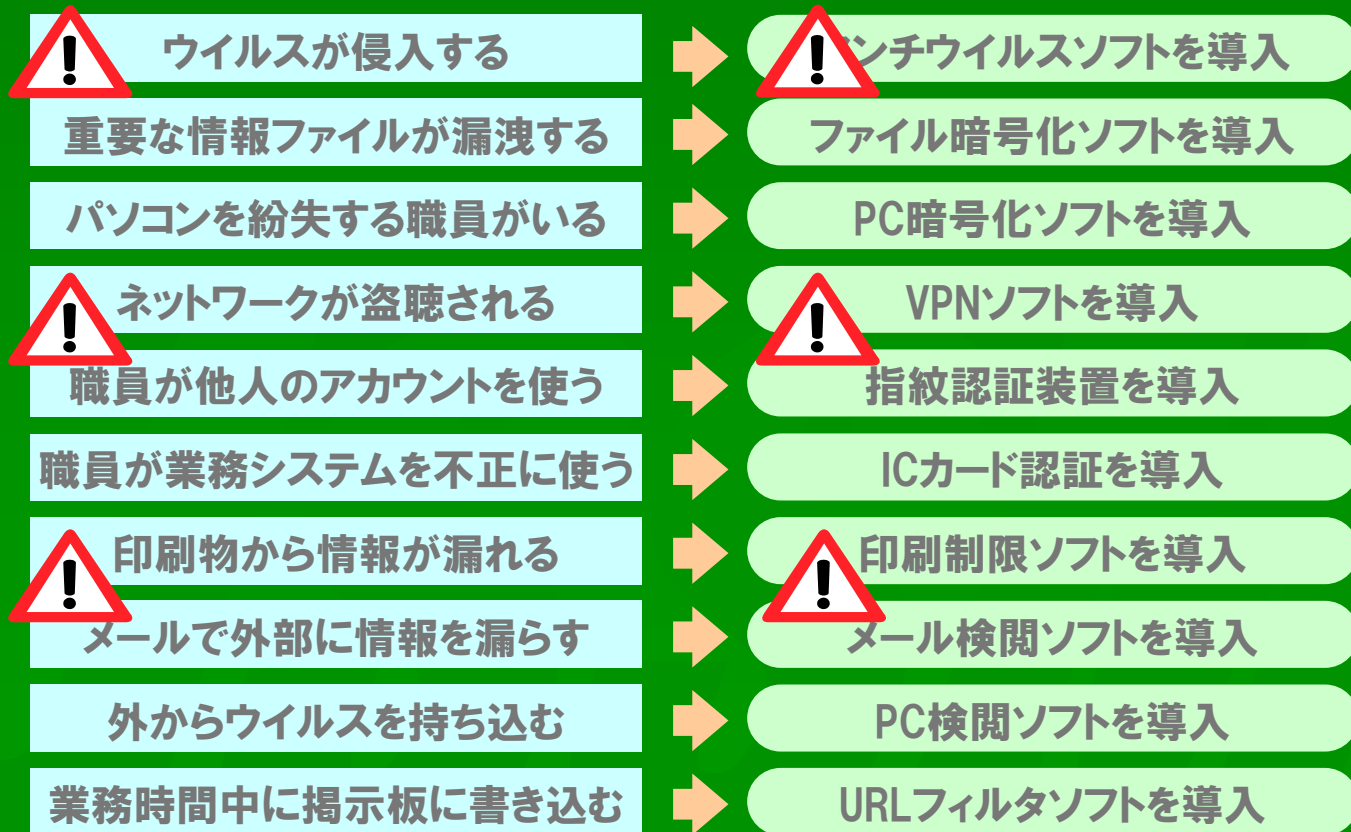
- システム開発・運用において、発注者・受託者間でセキュリティの要件定義や運用ルールを明確化がされているプロジェクトが少ない。
 - セキュリティリスクを明確にすることを避けたがる。
 - 受託条件明細書を交わす習慣がない(契約書添付率3割以下)。
 - 役割分担の明記がされていない。
 - 運用ルール(ノウハウは暗黙の周知となっていた)。
 - 緊急トラブル対応のマニュアル化(4割以下)。

■ 具体的課題

- セキュリティ要件定義と残存リスクの明確化。
- 受託明細書にセキュリティに関する役割・品質要件の明文化。

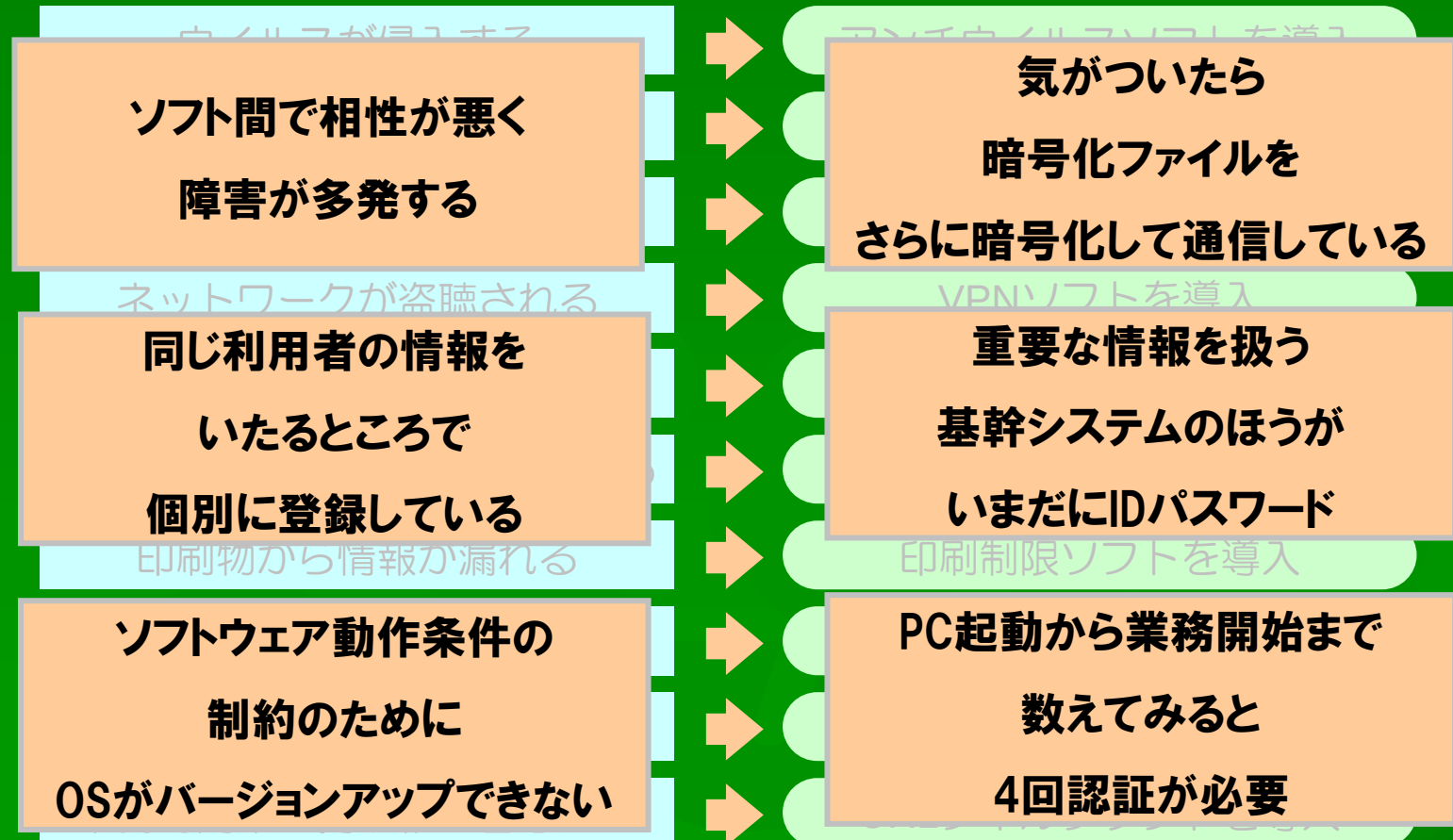
B. 構成要素別に見た具体的課題

■ 現状認識



B. 構成要素別に見た具体的課題

■ 現状認識



B. 構成要素別に見た具体的課題

■ 現状認識

ISMS

業界ガイドライン

法規制(個人情報保護法など)

業界要求

セキュリティ要求事項
(What to do : 何をすべきか)



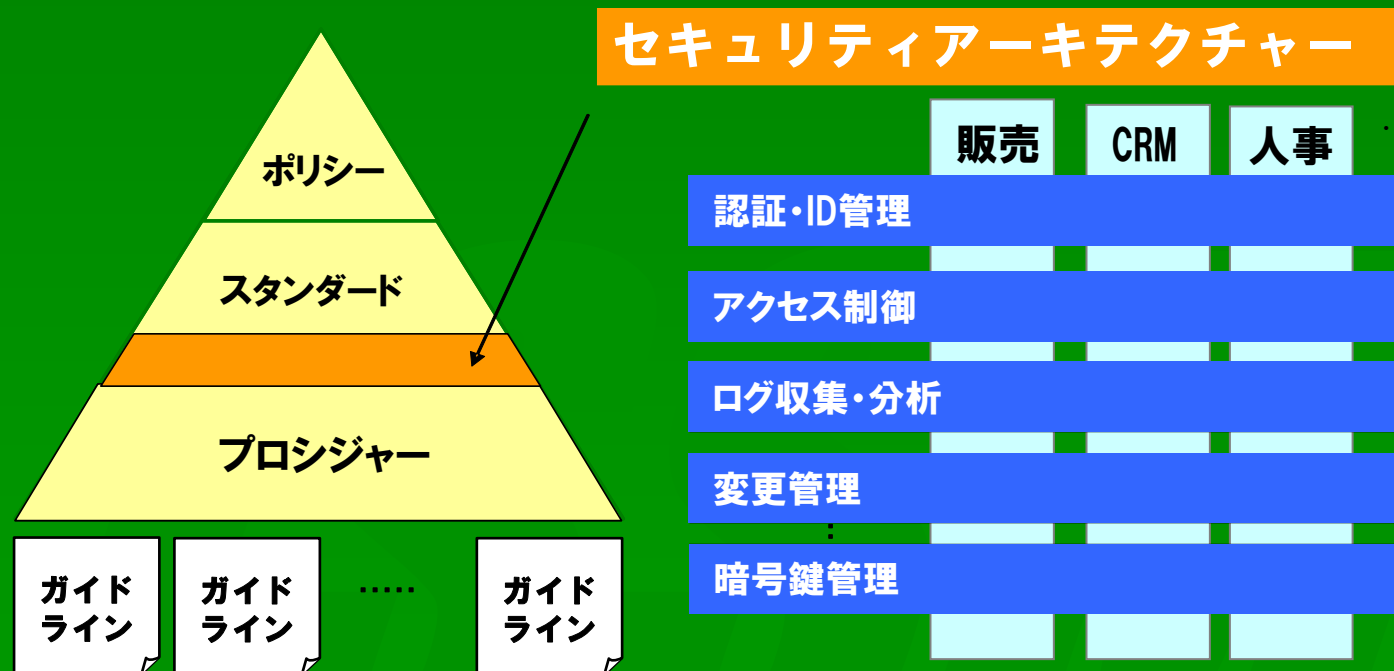
セキュリティの実装指針
(How to do : どうあるべきか)

- What to doの標準や指針は多いが、How to doは手探り

B. 構成要素別に見た具体的課題

■ セキュリティ対策実装面の具体的課題

業務共通のセキュリティ機能要件を整理し、アーキテクチャとしての確立



組織にとってあるべきセキュリティの実装指針。
セキュリティポリシーのスタンダードの中に定義